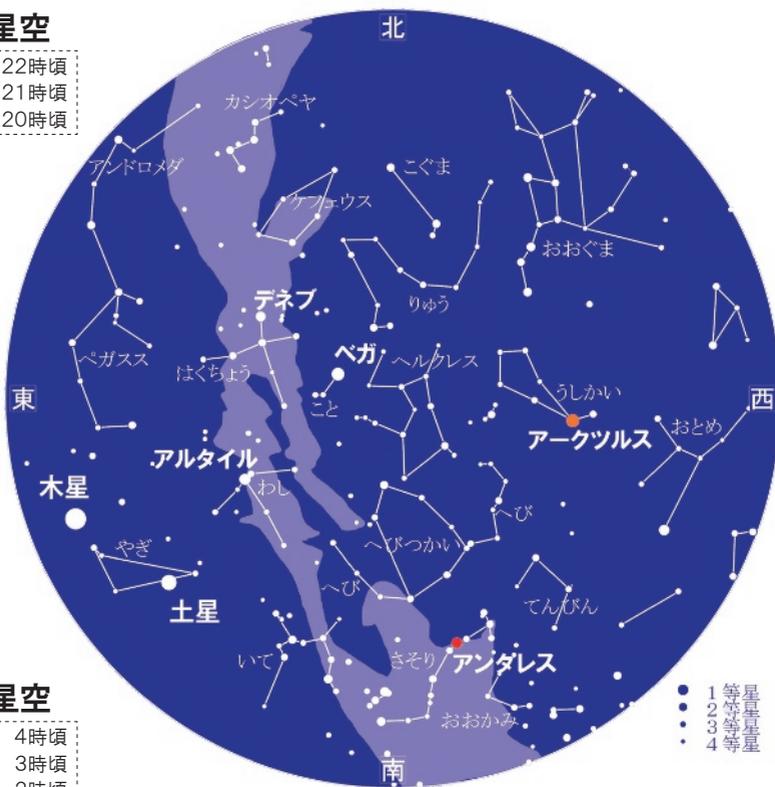


星空ガイド 7月16日～8月15日

よいの星空

7月16日22時頃
8月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

7月16日 4時頃
8月 1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
7	16	金	4:56	19:11	10:49	23:10	6.1
	21	水	4:59	19:08	16:35	1:35	11.1
	26	月	5:03	19:05	20:57	6:54	16.1
8	1	日	5:07	19:00	23:47	12:53	22.1
	6	金	5:11	18:55	2:29	17:32	27.1
	11	水	5:15	18:50	7:37	20:43	2.5
	15	日	5:18	18:46	12:02	22:50	6.5

※惑星は2021年8月1日の位置です。

8月13日の明け方に、ペルセウス座流星群が極大

8月13日(金)にペルセウス座流星群が極大を迎えます。極大時刻は13日の午前4時と予報されていますから、観望に最も適しているのは12日深夜から13日未明ということになります。前後の11日と13日の夜も、比較的多くの出現が予想されます。

特に今年は、8日が新月に当たっているため、12日夜での月齢は4程度と細く、しかも21時13分に月が沈みます。一方、ペルセウス座流星群が良く見えるようになるのは22時前後から夜明けですので、月明かりの影響がほとんどなく、好条件です。

ペルセウス座流星群は、22時前後から見え始め、放射点の高度が上がる深夜から明け方が見ごろとなります。13日未明のピーク時には、空の暗い場所では、1時間に40～50個程度が出現すると予想されています。

流星は、ペルセウス座にある放射点から四方八方に流れるような見え方をしますが、流星自体は空全体に出現しますので、なるべく空の広い範囲を見るようにして下さい。



図：ペルセウス座流星群の放射点

8月14日は旧七夕

8月14日(土)は、旧暦の7月7日にあたり、いわゆる旧七夕の日です。いまでは、現行の太陽暦で七夕行事を行うのが一般的ですが、近年は旧七夕を「伝統的七夕」とも呼び、この日にイベントを行う事もあります。また、旧七夕の時期に近づけるために、一か月遅い8月7日に七夕行事を行う地域もあります。今年は、旧七夕でも空を見上げてみてはいかがでしょうか。

嘉数 次人(科学館学芸員)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
7	17	土	●上弦(19時)
	18	日	冥王星が衝
	19	月	土用の入り
	21	水	月が最近(364,500km)
	22	木	大暑(太陽黄経120°)
	24	土	○満月(12時) 月と土星がならぶ
	26	月	月と木星がならぶ
31	土	●下弦(22時)	

月	日	曜	主な天文現象など
8	1	日	水星が外合
	2	月	土星が衝 月が最遠(404,400km)
	7	土	立秋(太陽黄経135°) 天王星が西矩
	8	日	●新月(23時)
	11	水	夕方に月と金星がならぶ
	13	金	ペルセウス座流星群が極大
	14	土	旧七夕